検証前レポートの見方について

項番	ランプ内容
1	糖尿病確定診断後の患者に対する連月のインスリン（ＩＲＩ）の算定について

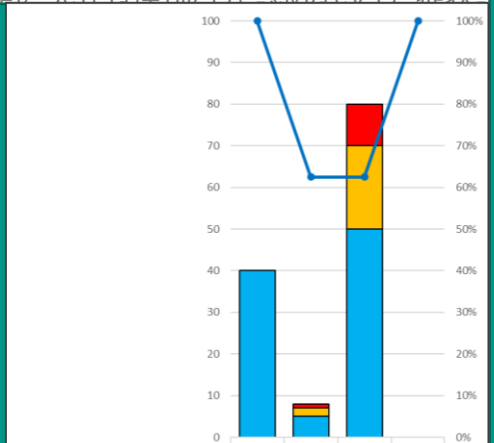
○**国保における取扱い（令和２年７月10日HP掲載）**
糖尿病確定診断後の患者に対するインスリン（ＩＲＩ）の連月の算定は、原則として認めない治療方針の評価及び決定等、連月の算定の必要性が医学的に判断できる場合は認める。

○**取扱いの根拠**
審査情報提供事例
され、その理由として「
一定間隔での経過観
臨床症状を呈する。」と
れ症状が安定している
場合もある。これらの状
断後の患者に対しての
対しては頻回に実施する糖尿病患者もいるため、連月の算定…

○**国保における取扱い**
審査における47都道府県国保連合会で共通の取決め内容
○**取扱いの根拠**
上記取扱いの医学的な根拠
○**留意事項**
上記取扱いにおける例外的な事例など留意が必要な内容
一部の項目のみに設けられています

○**棒グラフについて**
当該項目に対応するコンピュータチェックが貼付されたレセプトの総件数とその内訳を示します
- **該当件数**
  下記の３種類の内訳を合計したコンピュータチェック貼付レセプトの総件数
- **赤：請求どおり（職員）**
  審査担当職員が対象項目を査定せず請求どおりとした事例の件数
- **橙：請求どおり（審査委員）**
  審査委員が対象項目を査定せず請求どおりとした事例の件数
- **水色：査定**
  審査担当職員または審査委員が対象項目を査定等適切に処理した件数

○**折れ線グラフ（査定率）について**
コンピュータチェックが貼付されたレセプトの総件数のうち査定等適切な処理がされた事例の割合（棒グラフ全体に占める水色部分の割合）



	01 A県	02 B県	03 C県	04 D県
該当件数	40	8	80	0
請求どおり（職員）	0	1	10	0
請求どおり（審査委員）	0	2	20	0
査定	40	5	50	0
査定率	100%	63%	63%	100%

○**A県**
糖尿病確定診断後の患者に対して、連月でインスリン（IRI）を算定している事例が40件あり、そのすべてが査定されています

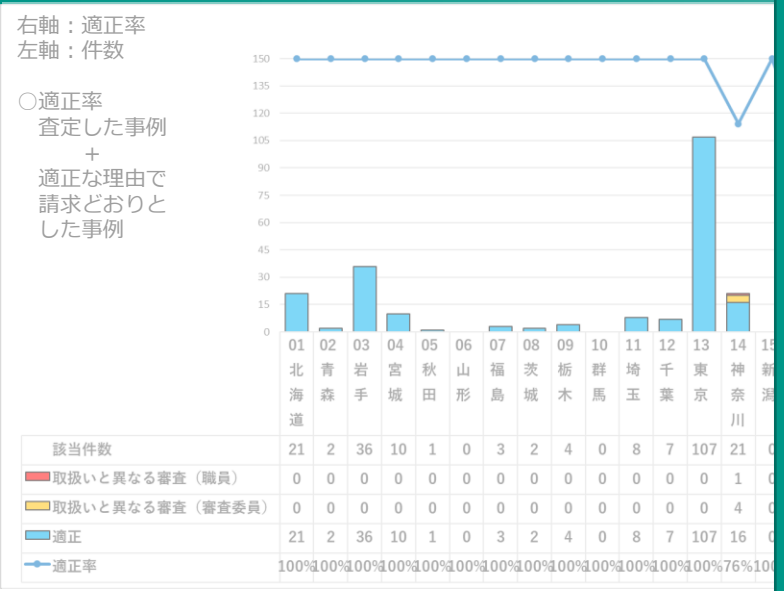
○**B県**
糖尿病確定診断後の患者に対して、連月でインスリン（IRI）を算定している事例が8件あり、職員が請求どおりとした事例が1件、審査委員が請求どおりとした事例が2件、
査定された事例が5件あります
全事例（8件）に占める査定率は約63%となります

○**C県**
糖尿病確定診断後の患者に対して、連月でインスリン（IRI）を算定している事例が80件あり、職員が請求どおりとした事例が10件、審査委員が請求どおりとした事例が20件、査定された事例が50件あります
全事例（80件）に占める査定率は約63%となります

○**D県**
糖尿病確定診断後の患者に対して、連月でインスリン（IRI）を算定している事例がない
該当事例がない場合、査定率は便宜上100%と表記しています

※請求どおりとした事例の中には、不合理な差異の原因となる「取扱いと異なる審査」のほか、
然るべき適切な理由の下で請求どおりと処理されたものも含まれます

検証後レポートの見方について



○棒グラフについて

当該項目に対応するコンピュータチェックが貼付されたレセプトの総件数とその内訳を示します

- **該当件数**
  下記の３種類の内訳を合計したコンピュータチェック貼付レセプトの総件数
- **赤：取扱いと異なる審査（職員）**
  審査担当職員が認識誤りなどにより査定せず請求どおりとした事例の件数
- **橙：取扱いと異なる審査（審査委員）**
  審査委員が認識誤りなどにより査定せず請求どおりとした事例の件数
- **水色：適正**
  審査担当職員または審査委員が対象項目を査定等適切に処理した件数及び適切な理由により請求どおりとした事例の件数

○折れ線グラフ（適正率）について

コンピュータチェックが貼付されたレセプトの総件数のうち査定等適切な処理がされた事例及び適切な理由により請求どおりとした事例の割合（棒グラフ全体に占める水色部分の割合）を示します

※該当事例がない場合、適正率は便宜上100%としています

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		３８２		
査定	全国共通の取り決め通り	３３９	８８．７%	適正審査 ９８．４%
請求どおり ４３件	当月から薬剤変更をしているもの等	３７	９．７%	
	職員の請求どおり　（認識誤り等）	１	０．３%	取扱いと異なる審査 １．６%
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	５	１．３%	

適正審査の内訳

取扱いと異なる審査の内訳

項番１　検証前レポート

項番	ランプ内容
1	糖尿病確定診断後の患者に対する連月のインスリン（ＩＲＩ）の算定について

○国保における取扱い（令和２年７月10日HP掲載）

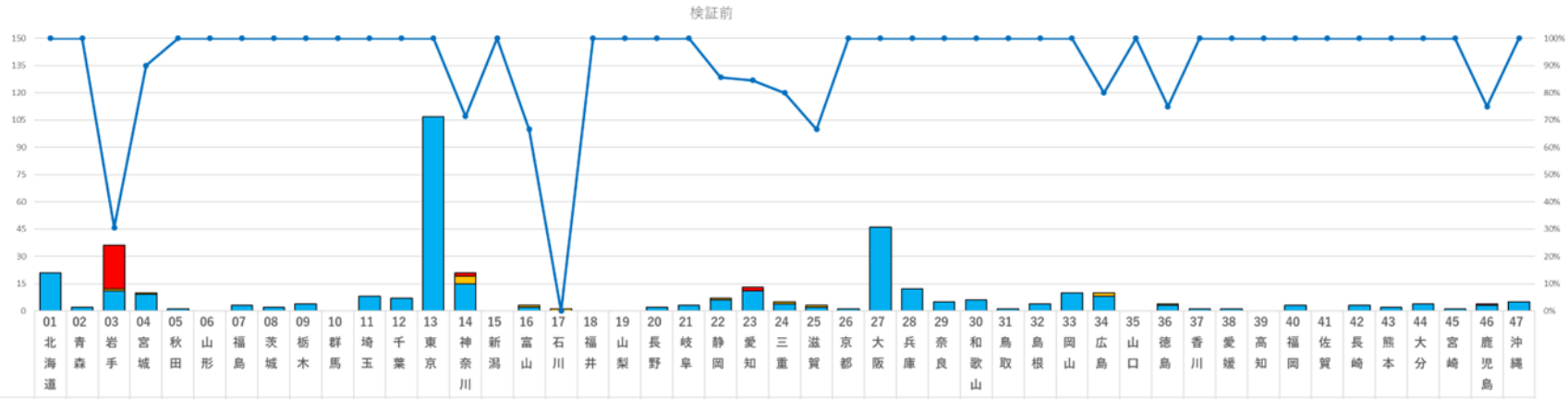
糖尿病確定診断後の患者に対するインスリン（ＩＲＩ）の連月の算定は、原則として認めない。ただし、症状詳記等から薬剤変更時、コントロール不良例、治療方針の評価及び決定等、連月の算定の必要性が医学的に判断できる場合は認める。

○取扱いの根拠

審査情報提供事例（平成18 年3 月27 日第2 次提供事例）より「原則として、糖尿病確定後の患者に対して、インスリン（ＩＲＩ）は認められる。」とされ、その理由として「糖尿病として診断されても、その型別の判断が困難である症例も見受けられる。糖尿病の病態把握、特にインスリン抵抗性を知るために、一定間隔での経過観察が必要な場合もある。まれな病型であるが、slowly progressive Ⅰ型糖尿病においては、発症初期には一見Ⅱ型糖尿病のような臨床症状を呈する。」としている。インスリン（ＩＲＩ）は、インスリン分泌能の評価を行い、病型の診断（Ⅰ型等）を行う検査であり、病型の診断が既に行われ症状が安定している患者に対しては頻回に実施する検査ではないが、薬剤変更時、コントロール不良例、治療方針の評価及び決定等、経過観察が必要な場合もある。これらの状態が病名又は症状詳記等で医学的に判断できる場合は、連月の算定は原則認められると判断した。以上のことから、糖尿病確定診断後の患者に対してのＩＲＩの算定は、一定間隔での経過観察が必要な場合等もあるため認めるが、病型の診断が既に行われ、症状が安定している患者に対しては頻回に実施する検査ではないため、連月の算定については原則として認めないとし、症状詳記等から薬剤変更時、コントロール不良例、治療方針の評価及び決定等、連月の算定の必要性が医学的に判断できれば認める場合もあるとして取り扱うこととする。

右軸：査定率
左軸：件数

令和７年
11月
審査分

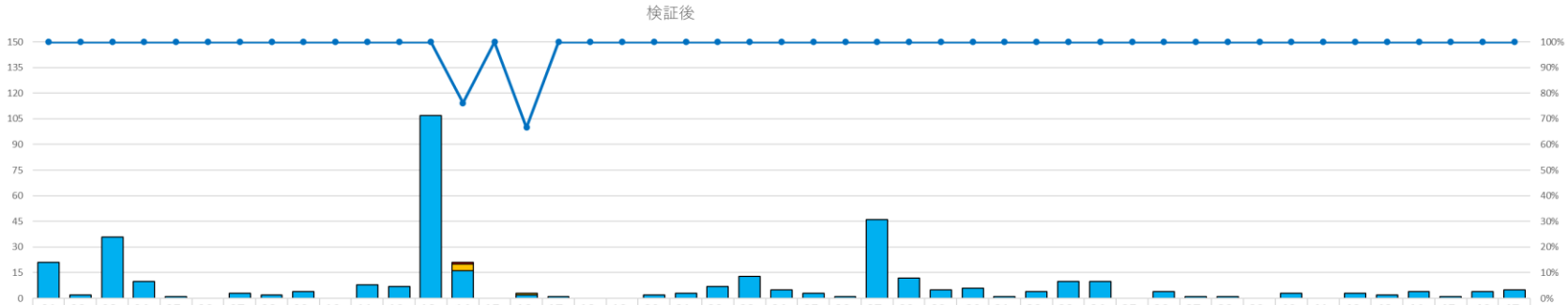


	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	21	2	36	10	1	0	3	2	4	0	8	7	107	21	0	3	1	0	0	2	3	7	13	5	3	1	46	12	5	6	1	4	10	10	0	4	1	1	0	3	0	3	2	4	1	4	5
請求どおり(職員)	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
請求どおり(審査委員)	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定	21	2	11	9	1	0	3	2	4	0	8	7	107	15	0	2	0	0	0	2	3	6	11	4	2	1	46	12	5	6	1	4	10	8	0	3	1	1	0	3	0	3	2	4	1	3	5
査定率	100%	100%	31%	90%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	71%	100%	67%	0%	100%	100%	100%	100%	86%	85%	80%	67%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	80%	100%	75%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	75%	100%

項番１　検証後レポート

右軸：適正率
左軸：件数

○適正率
　査定した事例
　　＋
　適正な理由で
　請求どおりと
　した事例



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	21	2	36	10	1	0	3	2	4	0	8	7	107	21	0	3	1	0	0	2	3	7	13	5	3	1	46	12	5	6	1	4	10	10	0	4	1	1	0	3	0	3	2	4	1	4	5
取扱いと異なる審査（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
取扱いと異なる審査（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正	21	2	36	10	1	0	3	2	4	0	8	7	107	16	0	2	1	0	0	2	3	7	13	5	3	1	46	12	5	6	1	4	10	10	0	4	1	1	0	3	0	3	2	4	1	4	5
適正率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	76%	100%	67%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		３８２		
査定	全国共通の取り決め通り	３３９	８８．７%	適正審査 ９８．４%
請求どおり ４３件	当月から薬剤変更をしているもの等	３７	９．７%	
	職員の請求どおり　（認識誤り等）	１	０．３%	取扱いと異なる審査 １．６%
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	５	１．３%	

項番２　検証前レポート

項番	ランプ内容
2	細菌顕微鏡検査(血液培養)

○国保における取扱い（令和２年７月10日HP掲載）

原則として、血液培養の際の検体での細菌顕微鏡検査は認められない。

○取扱いの根拠

臨床的に感染症の診療に当っては、原虫類、一部のスピロヘータ類は塗抹検査でその種類を特定できるが、細菌類、真菌類の多くは培養検査の結果を待たなければならない。

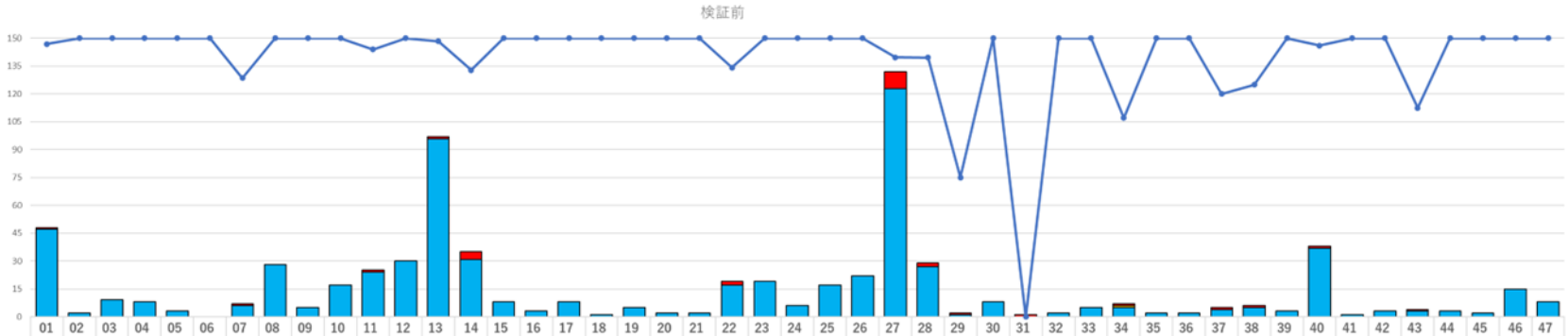
また、検体塗抹検査によって菌が検出されるためには、材料中に多量の菌の存在が必要であり、化学療法の普及した今日にあっては、塗抹検査で菌の検出されることは極めて限られており、日常診療での有用性は極めて限られていると判断される。

○留意事項

原則として、血液培養の際の検体からの細菌顕微鏡検査は認められないが、マラリア、アメーバ赤痢等顕微鏡検査による形態学的診断が極めて重要な役割を演じる疾患であって、当該疾病を疑う医学的必要性が認められる場合は、Ｄ００５の７血中微生物検査により算定する。

右軸：査定率
左軸：件数

令和７年
11月
審査分

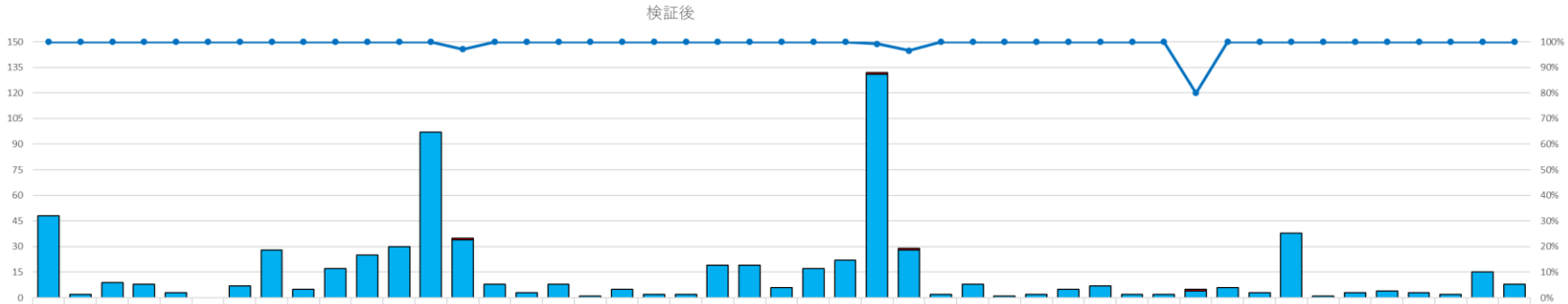


	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	48	2	9	8	3	0	7	28	5	17	25	30	97	35	8	3	8	1	5	2	2	19	19	6	17	22	132	29	2	8	1	2	5	7	2	2	5	6	3	38	1	3	4	3	2	15	8
請求どおり(職員)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	9	2	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0
請求どおり(審査委員)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定	47	2	9	8	3	0	6	28	5	17	24	30	96	31	8	3	8	1	5	2	2	17	19	6	17	22	123	27	1	8	0	2	5	5	2	2	4	5	3	37	1	3	3	3	2	15	8
査定率	98%	100%	100%	100%	100%	100%	86%	100%	100%	100%	96%	100%	99%	89%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	89%	100%	100%	100%	100%	93%	93%	50%	100%	0%	100%	100%	71%	100%	100%	80%	83%	100%	97%	100%	100%	75%	100%	100%	100%	100%

項番２　検証後レポート

右軸：適正率
左軸：件数

○適正率
　査定した事例
　　＋
　適正な理由で
　請求どおりと
　した事例



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	48	2	9	8	3	0	7	28	5	17	25	30	97	35	8	3	8	1	5	2	2	19	19	6	17	22	132	29	2	8	1	2	5	7	2	2	5	6	3	38	1	3	4	3	2	15	8
取扱いと異なる審査（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
取扱いと異なる審査（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正	48	2	9	8	3	0	7	28	5	17	25	30	97	34	8	3	8	1	5	2	2	19	19	6	17	22	131	28	2	8	1	2	5	7	2	2	4	6	3	38	1	3	4	3	2	15	8
適正率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	99%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	80%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		７０４		
査定	全国共通の取り決め通り	６７５	９５．９％	適正審査 ９９．４％
請求どおり ２９件	他の検体で算定しているもの等	２５	３．５％	
	職員の請求どおり　（認識誤り等）	４	０．６％	取扱いと異なる審査 ０．６％
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	０	０％	

項番３　検証前レポート

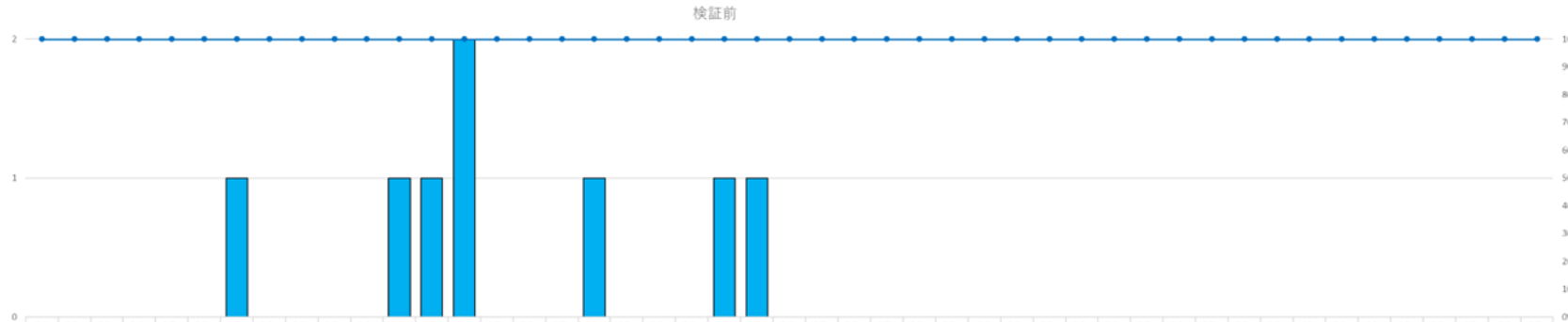
項番	ランプ内容
3	ループスアンチコアグラント定性、ループスアンチコアグラント定量（膠原病疑い）

○国保における取扱い（令和２年７月10日HP掲載）
「抗リン脂質抗体症候群」の病名がない場合、「膠原病疑い」に対するループスアンチコアグラント定性、ループスアンチコアグラント定量は認められない。

○取扱いの根拠
膠原病のスクリーニング検査としてループスアンチコアグラント定性、ループスアンチコアグラント定量を測定することは適当でない。

右軸：査定率
左軸：件数

令和７年
11月
審査分

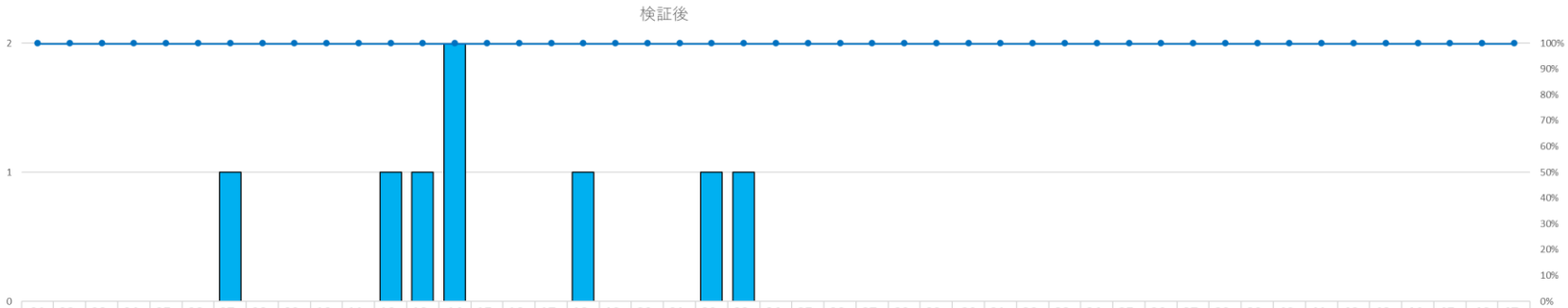


	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
請求どおり（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
請求どおり（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

項番３　検証後レポート

右軸：適正率
左軸：件数

○適正率
　査定した事例
　　＋
　適正な理由で
　請求どおりと
　した事例



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
取扱いと異なる審査（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
取扱いと異なる審査（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		8		
査定	全国共通の取り決め通り	8	１００%	適正審査 １００%
請求どおり ０件	職員の請求どおり　（認識誤り等）	0	０%	取扱いと 異なる審査 ０%
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	0	０%	

項番４　検証前レポート

項番	ランプ内容
４	Ｔ３、ＦＴ３、Ｔ４、ＦＴ４（併施）

○国保における取扱い（令和２年７月10日HP掲載）

原則として、Ｔ３とＦＴ３、Ｔ４とＦＴ４の併施は認められない。

Ｔ３およびＴ４、あるいはＦＴ３およびＦＴ４の組み合わせによる併施は認められる。

○取扱いの根拠

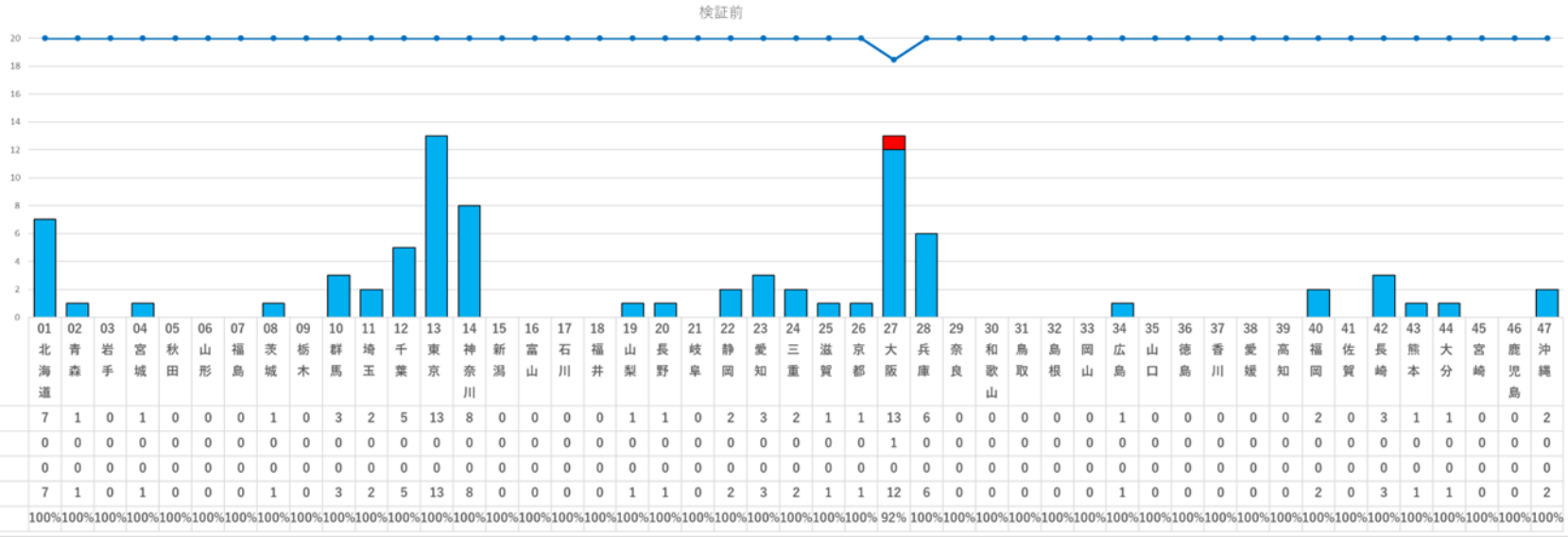
日常の臨床の場で、甲状腺ホルモンの動向をみるためには、特定の場合を除き総甲状腺ホルモンＴ３、Ｔ４の測定によってのみでも可能であるが、総甲状腺ホルモン（Ｔ３やＴ４）は、血中ではその大部分が蛋白（ＴＢＧ等）と結合した形で存在しており、実際の生体での作用は遊離系のｆｒｅｅＴ３（ＦＴ３）、ｆｒｅｅＴ４（ＦＴ４）濃度によって決定されることから、病態の把握には遊離ホルモンの測定がより有用となる。また、甲状腺ホルモンの総量と遊離系ホルモン量とは概ね相関して増減することから、特定の場合を除き、甲状腺ホルモンの測定は、その遊離系ホルモン量あるいは甲状腺ホルモン総量測定のいずれかによることが望ましい。

○留意事項

まれに、ＴＢＧ異常症等でＴ３・Ｔ４とＦＴ３・ＦＴ４との間に乖離（かいり）が見られることがあり、臨床的にそのようなことが想定されＴ３とＦＴ３、Ｔ４とＦＴ４の併施測定の医学的必要性が認められる場合に限り認められる。

右軸：査定率
左軸：件数

令和７年
11月
審査分

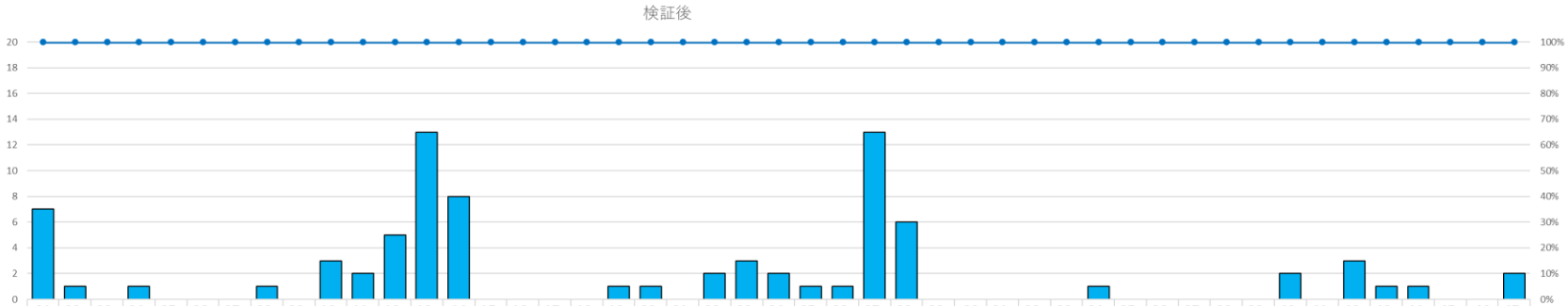


	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	7	1	0	1	0	0	0	1	0	3	2	5	13	8	0	0	0	0	1	1	0	2	3	2	1	1	13	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	1	1	0	0	2
請求どおり（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
請求どおり（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
査定	7	1	0	1	0	0	0	1	0	3	2	5	13	8	0	0	0	0	1	1	0	2	3	2	1	1	12	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	1	1	0	0	2
査定率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	92%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

項番４　検証後レポート

右軸：適正率
左軸：件数

○適正率
　査定した事例
　　＋
　適正な理由で
　請求どおりと
　した事例



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	7	1	0	1	0	0	0	1	0	3	2	5	13	8	0	0	0	0	1	1	0	2	3	2	1	1	13	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	1	1	0	0	2
取扱いと異なる審査（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
取扱いと異なる審査（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正	7	1	0	1	0	0	0	1	0	3	2	5	13	8	0	0	0	0	1	1	0	2	3	2	1	1	13	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	1	1	0	0	2
適正率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		８１		
査定	全国共通の取り決め通り	８０	９８．８％	適正審査 １００％
請求どおり １件	振替分割で社保レセプトのため（未処理）	1	１．２％	
	職員の請求どおり　　（認識誤り等）	0	０％	取扱いと 異なる審査 ０％
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	0	０％	

項番５　検証前レポート

項番	ランプ内容
5	手術前においてスクリーニングを目的として実施したＤ006の14 Ｄダイマー定性、Ｄ006の15 Ｄダイマー半定量及びＤ006の17 Ｄダイマーの算定について

○国保における取扱い（令和７年３月28日HP掲載）

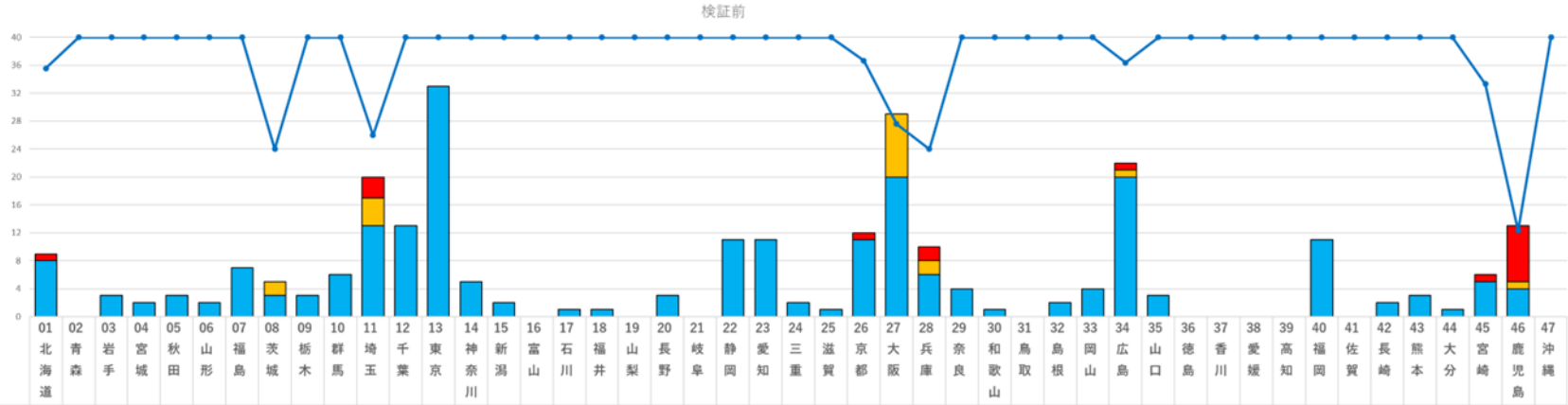
手術前において、スクリーニングを目的として実施したＤ006の14 Ｄダイマー定性、Ｄ006の15 Ｄダイマー半定量及びＤ006の17 Ｄダイマーの算定は、血栓症の発症リスクの高い症例を除き、原則として認められない。

○取扱いの根拠

Ｄダイマーは、安定化フィブリンのプラスミンによる分解産物で、二次線溶（フィブリン形成に伴う線溶）の亢進の指標となるものであり、ＤＩＣや深部静脈血栓症の診断ならびに病勢の推移の評価に用いるものである。したがって、血栓症の発症リスクが高い症例を除き、手術前におけるスクリーニングを目的とした当該検査の必要性は低く、原則認められないと判断した。

右軸：査定率
左軸：件数

令和７年
11月
審査分

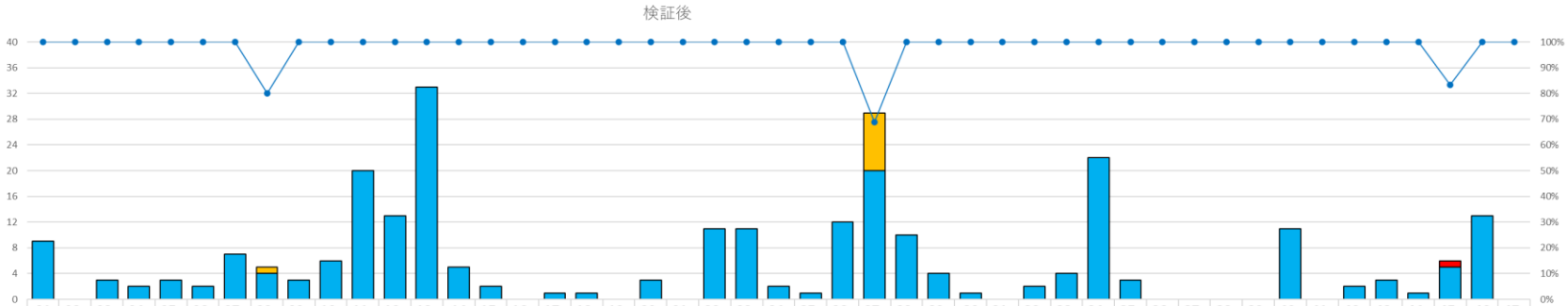


	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	9	0	3	2	3	2	7	5	3	6	20	13	33	5	2	0	1	1	0	3	0	11	11	2	1	12	29	10	4	1	0	2	4	22	3	0	0	0	0	11	0	2	3	1	6	13	0
請求どおり(職員)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0
請求どおり(審査委員)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
査定	8	0	3	2	3	2	7	3	3	6	13	13	33	5	2	0	1	1	0	3	0	11	11	2	1	11	20	6	4	1	0	2	4	20	3	0	0	0	0	11	0	2	3	1	5	4	0
査定率	89%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	60%	100%	100%	65%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	92%	69%	60%	100%	100%	100%	100%	100%	91%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	83%	31%	100%

項番５　検証後レポート

右軸：適正率
左軸：件数

○適正率
　査定した事例
　　＋
　適正な理由で
　請求どおりと
　した事例



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	9	0	3	2	3	2	7	5	3	6	20	13	33	5	2	0	1	1	0	3	0	11	11	2	1	12	29	10	4	1	0	2	4	22	3	0	0	0	0	11	0	2	3	1	6	13	0
取扱いと異なる審査（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
取扱いと異なる審査（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正	9	0	3	2	3	2	7	4	3	6	20	13	33	5	2	0	1	1	0	3	0	11	11	2	1	12	20	10	4	1	0	2	4	22	3	0	0	0	0	11	0	2	3	1	5	13	0
適正率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	80%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	69%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	83%	100%	100%

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		２６６		
査定	全国共通の取り決め通り	２３０	８６．５%	適正審査 ９５．９%
請求どおり ３６件	血栓症のリスクが高い症例であったと判断したもの等	２５	９．４%	
	職員の請求どおり（認識誤り等）	１	０．４%	取扱いと異なる審査 ４．１%
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	１０	３．７%	

項番６　検証前レポート

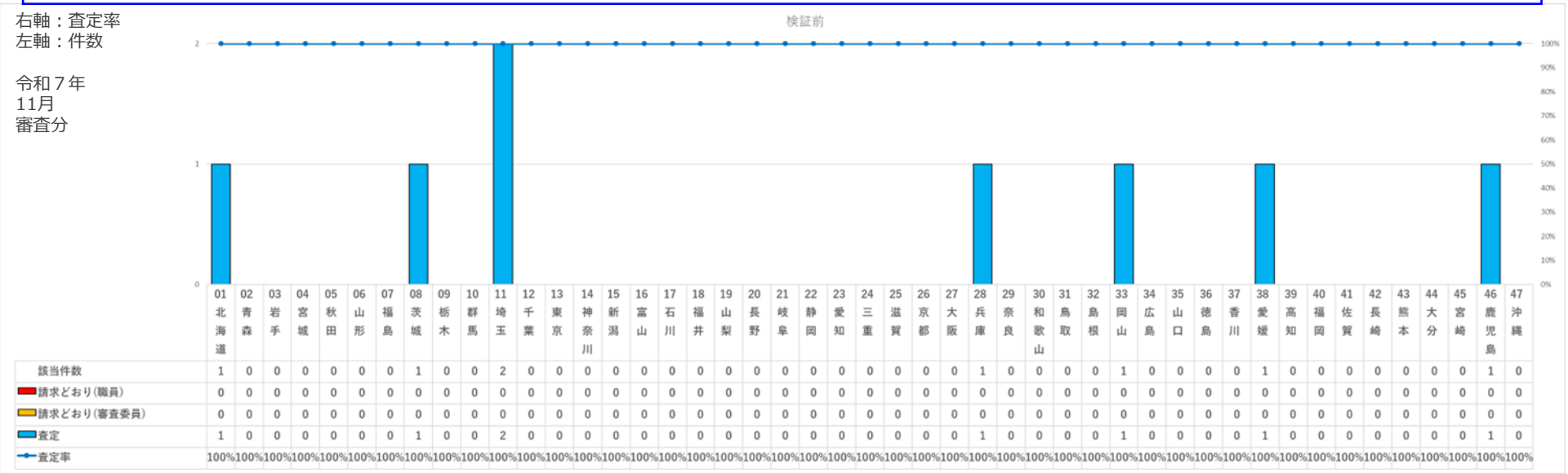
項番	ランプ内容
6	透視診断（腎盂造影）

○国保における取扱い（令和２年７月10日HP掲載）

腎盂造影撮影時の透視診断は認められない。

○取扱いの根拠

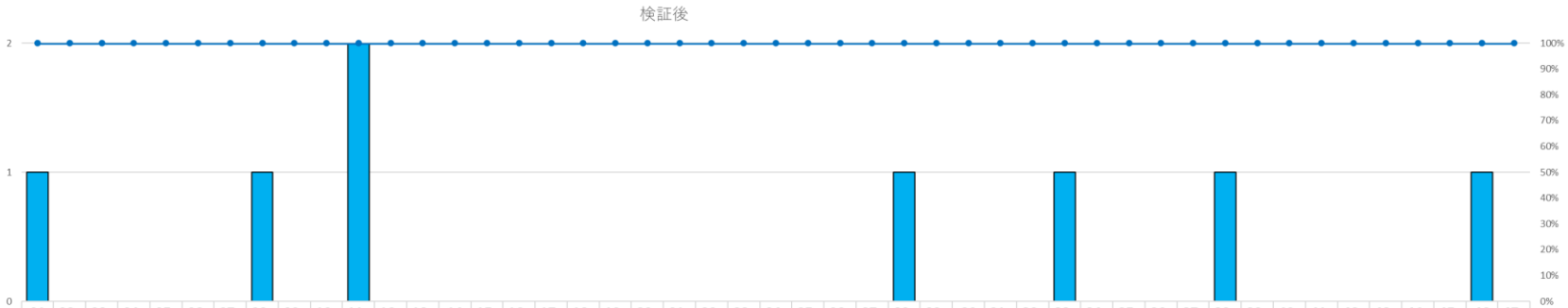
透視診断料は、透視により疾病・病巣の診断を評価するものであり、消化管の造影剤使用撮影に際し腸管の所要の位置に造影剤が到達しているか否かを透視により検査する場合等、撮影の時期決定や準備手段又は他の検査、注射、処置及び手術の補助手段として行う透視については算定できない。



項番６　検証後レポート

右軸：適正率
左軸：件数

○適正率
　査定した事例
　　＋
　適正な理由で
　請求どおりと
　した事例



	01 北海道	02 青森	03 岩手	04 宮城	05 秋田	06 山形	07 福島	08 茨城	09 栃木	10 群馬	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	15 新潟	16 富山	17 石川	18 福井	19 山梨	20 長野	21 岐阜	22 静岡	23 愛知	24 三重	25 滋賀	26 京都	27 大阪	28 兵庫	29 奈良	30 和歌山	31 鳥取	32 島根	33 岡山	34 広島	35 山口	36 徳島	37 香川	38 愛媛	39 高知	40 福岡	41 佐賀	42 長崎	43 熊本	44 大分	45 宮崎	46 鹿児島	47 沖縄
該当件数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
取扱いと異なる審査（職員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
取扱いと異なる審査（審査委員）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
適正	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
適正率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

		件数	割合	
コンピュータチェック貼付数		8		
査定	全国共通の取り決め通り	8	１００%	適正審査 １００%
請求どおり ０件	職員の請求どおり　（認識誤り等）	0	０%	取扱いと 異なる審査 ０%
	審査委員の請求どおり（認識誤り等）	0	０%	